

世界遺産アーカイブとしての映画の可能性： 建築・都市空間の記述メディアとしての映画 に関する研究

種田, 元晴 / ANDO, Naomi / TSUJI, Tomoko / TANEDA,
Motoharu / 安藤, 直見 / 辻, 朋子

(出版者 / Publisher)

法政大学工学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学工学部研究集報 / 法政大学工学部研究集報

(巻 / Volume)

44

(開始ページ / Start Page)

7

(終了ページ / End Page)

10

(発行年 / Year)

2008-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00003274>

世界遺産アーカイブとしての映画の可能性
—建築・都市空間の記述メディアとしての映画に関する研究—

THE POTENCIAL OF THE MOVIES AS THE MEDIA FOR RECORDS AND REPRESENTATIONS
OF WORLD HERITAGE

- Study on the movies as the media for records and representations of the architectural and urban space -

種田元晴*, 辻朋子**, 安藤直見**

Motoharu TANEDA, Tomoko TSUJI, Naomi ANDO

World Heritages as architectural and urban spaces are depicted in various movies. World Heritages are properties not only to be preserved but to be succeed the meaning of their value to the next generation. Representations of World Heritages in movies are considered to have potential to record their spatial descriptions. The aim of this study is to examine the method of inflecting movies to represent value of World Heritages. Questionnaires to survey the relations of movies and World Heritages are carried on.

Key Words : movie , World Heritage , space representation , perception survey

映画, 世界遺産, 空間表現, 意識調査

1. はじめに

映画は、物語を表現する娯楽メディアであると同時に、実在の空間もしくは仮想の空間を視覚的に体験させる娯楽的要素を持っている。映画は、多様な建築・都市空間を記録し後世に伝える映像アーカイブでもあり得る。映画には世界各地の代表的な建築・都市空間である世界遺産^{注1)}が登場する。世界遺産は単に凍結保存されるべき資産ではなく、次世代にその価値を継承するために、観光も含めて多くの人々にその存在を発信していく役割が求められている^{注2)}。映画は、世界遺産を多様な空間表現の題材として扱うことで、直接的に世界遺産の存在を伝える媒体ともなり、また、鑑賞によって映画の舞台となっている世界遺産への観光意欲を掻き立てる^{注3)}ことで、間接的にその価値を伝える媒体ともなると考えられる。本研究では、世界遺産が映画の空間表現の題材として投影されることで、その価値を伝える役割を果たし得ることを検証する。

2. 調査の概要

第1に、世界遺産に関する理解度とその情報源について、本学工学部建築学科2年生123名^{注4)}を対象に、事前に一切の解説をせず世界遺産を描いていると思われる映画についてアンケート調査を行った（以下、この回答者を「解説なし回答者」という）。第2に、本学デザイン工学部1

年生118グループ^{注5)}を対象に、映画に世界遺産が多様な空間表現のための題材として描かれていることを事前に解説し、その上で世界遺産の描かれた映画について回答を得た（以下、この回答者を「解説あり回答者」という）。本研究では、これらの2つの調査に基づき、予備知識の有無による世界遺産の意識の差異を検証する。

3. 「解説なし回答者」への意識調査

(1) 世界遺産に関する理解度

世界遺産の基本的概念に関する質問（五肢択一）に対して、72.4%の回答者が「知っていた」もしくは「なんとなく知っていた」と答えた（表1）。また、世界遺産のイメージに関する質問（自由記述、複数回答可）に対して、表2に示す延べ210のキーワードが挙げられ、上位4つは世界遺産の基本的概念に関するキーワードが占めた。これらの回答結果より、世界遺産の趣旨が概ね理解されていることが窺えた。

表1 世界遺産の認知度

知っていた	23	18.7%
なんとなく知っていた	66	53.7%
なにも知らない	9	7.3%
ほとんど知らなかった	15	12.2%
まったく知らなかった	10	8.1%
合計	123	100.0%

* 大学院工学研究科建設工学専攻

** 工学部建築学科

表2 世界遺産のイメージ

価値がある	63	30.0%
歴史がある	41	19.5%
保存すべき	27	12.9%
観光地	20	9.5%
大きい	19	9.0%
美しい	16	7.6%
その他	24	11.4%
合計	210	100.0%

表3 世界遺産を知る媒体

テレビ	113	41.2%
本	50	18.2%
人	42	15.3%
雑誌	32	11.7%
ネット	9	3.3%
映画	7	2.6%
その他	21	7.7%
合計	274	100.0%

(2) 世界遺産の情報源

世界遺産を知る情報源に関する質問（複数選択可）に対して、情報源が「テレビ」であるとした回答数は 41.2%であった。一方、「映画」が情報源であるとした回答数は 2.6%であった（表 3）。情報源としてテレビが圧倒的に多く挙げられたのは、世界遺産の紹介に特化したドキュメンタリー番組^{※1}があることが主な理由と考えられる。同じ映像メディアであっても、映画は、世界遺産を知る情報源にはほとんどなっていない事が明らかとなった。

(3) 世界遺産を描いた映画に関する意識調査

「特定の都市・街並みが描かれていたと思う映画」に関する質問（自由記述）に対して 27 作品の映画が挙がり、そのうち 15 作品の映画に世界遺産が描かれていた（表 4）。一方、「世界遺産が描かれていたと思う映画」に関する質問（自由記述）に対して作品名が挙がったものは、8 作品のみであった（表 5）。

映画に「特定の都市・街並み」が描かれていたというイメージはある程度想起されるものの、「世界遺産」が描かれていたというイメージは想起されにくいといえる。一方で、表 5 に示す 8 作品では描かれた世界遺産が正確に回答されていた。これらは、映画の舞台、あるいは映画のテーマが世界遺産と強く関連していたため、世界遺産を認識しやすかったと考えられる。また、表 5 に示す 8 作品のうち都市・街並みではない「自然遺産」等の風景を描いた 3 作品以外は表 4 でも挙げられており、世界遺産が、世界遺産と認識されることなく、印象的な建築・都市空間として認識されていると考えられる。

表 4 「特定の都市・街並みが描かれていたと思う映画」のアンケート回答

NO	作品名	回答数	回答	登場する世界遺産(名称表記は文献[2]に準ずる)	空間型
1	ローマの休日(1953) ■	11	ローマ、イタリア	バチカン市国/バリのセーナ河岸/ローマ歴史地区	◎
2	ハムナプトラ2 黄金のピラミッド(2001) ■	6	ピラミッド、エジプト、アブシネル神殿	メンフィスとその墓地遺跡/アブ・シンベルからフィラエまでのヌビア遺跡群	○
3	冷静と情熱のあいだ(2001) ■	5	フィレンツェ、イタリア、ミラノ	フィレンツェ歴史地区	○
4	ダ・ヴィンチ・コード(2006) ■	4	フランスの美術館付近、パリ	バリのセーナ河岸/ロンドン塔/ウェストミンスター宮殿	○
5	スパイダーマン(2002)	3	ニューヨーク、アメリカ	—	◎
6	グラディエーター(2000) ■	2	CGによるコロッセウム	アイト・ベン・ハドゥの集落/ローマ歴史地区	○
7	ただ、君を愛してる(2006)	2	ニューヨーク	—	○
8	ラストエンペラー(1997) ■	1	故宮	北京と瀋陽の明・清朝の皇宮群	◎
9	ホームアローン2(1992)	1	ニューヨーク、ターミナル	—	◎
10	ライフ・イズ・ビューティフル(1998)	1	回答なし	—	◎
11	ハンニバル(2000) ■	1	フィレンツェ	フィレンツェ歴史地区	○
12	ショコラ(2000)	1	ニース、フィレンツェ	—	◎
13	イルマール(2000)	1	イルマール湖	—	○
14	TAXI ②(2000) ■	1	フランスの街並み	バリのセーナ河岸	◎
15	ハリー・ポッターと賢者の石(2001) ■	1	ロンドン	ウェストミンスター宮殿/ダラム城と大聖堂	◎
16	スパニッシュ・アパートメント(2002) ■	1	バルセロナ	アントニ・ガウディの作品群	○
17	戦場のピアニスト(2002) ■	1	回答なし	ワルシャワ歴史地区	◎
18	世界の中心で、愛をさけぶ(2004) ■	1	オーストラリアのエアーズロック	ウルル・カタ・ジュタ国立公園	○
19	ロシアン・ドールズ(2004) ■	1	フランス、イギリス、ロシア	バリのセーナ河岸/サンクト・ペテルブルグ歴史地区と関連建造物群	○
20	TAXI NY(2005) ■	1	ニューヨーク	自由の女神像	◎
21	かもめ食堂(2005)	1	ノルウェー	—	◎
22	甘い泥(2006)	1	キブツ、スリランカ	—	◎
23	ワイルド・スピードX3 TOKYO DRIFT(2006)	1	東京	—	◎
24	ブラダを結んだ悪魔(2006) ■	1	フランスの街並み	バリのセーナ河岸	○
25	ブライトと偏見(2006)	1	イギリスのスタンフォード	—	◎
26	バベル(2006)	1	回答なし	—	○
27	パフェム ある人殺しの物語(2006)	1	回答なし	—	○
—	映画を特定できない	5	—	—	—
—	ない・覚えていない・思いつかない	74	—	—	—

■：世界遺産が描写されている作品

「空間型」欄の◎は単一空間型、○は空間配列型を表す(それぞれの詳細は後述)。

表 5 「世界遺産が描かれていたと思う映画」のアンケート回答

NO	作品名	回答数	回答	登場する世界遺産(名称表記は文献[2]に準ずる)	空間型
1	ハムナプトラ2 黄金のピラミッド(2001) □	8	ピラミッド、アブシネル神殿	メンフィスとその墓地遺跡/アブ・シンベルからフィラエまでのヌビア遺跡群	○
2	ダ・ヴィンチ・コード(2006) □	5	フランス、ルーブル美術館	バリのセーナ河岸/ロンドン塔/ウェストミンスター宮殿	○
3	もののけ姫(1997)	3	屋久島	屋久島	○
4	ローマの休日(1953) □	2	ローマ	バチカン市国/バリのセーナ河岸/ローマ歴史地区	◎
5	グラディエーター(2000) □	2	コロッセウム	アイト・ベン・ハドゥの集落/ローマ歴史地区	○
6	地雷を踏んだらサヨウナラ(1999)	1	アンコールワット	アンコール	○
7	冷静と情熱のあいだ(2001) □	1	イタリアの街並み	フィレンツェ歴史地区	○
8	ロード・オブ・ザ・リング(2001)	1	ニュージーランドの自然風景	トンガリロ国立公園	○
—	映画を特定できない/世界遺産でない	4	—	—	—
—	ない・覚えていない・思いつかない	93	—	—	—

□：表 4 との重複作品

「空間型」欄の◎は単一空間型、○は空間配列型を表す(それぞれの詳細は後述)。

表 6 「デザイン工学入門」でのレポートに挙げられた世界遺産を描いている映画

NO	作品名	①	②	③	NO	作品名	①	②	③	NO	作品名	①	②	③
1	ノートルダムの偲慕男 (1939)	◎			27	地獄を脱んだらサヨウナラ (1998) □		○		53	モーターサイクル・ダイアリーズ (2003)		○	
2	ピーターパン (1953)			●	28	TAXI ② (2000) ■	◎			54	リグ・オブ・レジッド / 時空を超えた戦い (2003)		○	
3	ローマの休日 (1953) ■□	◎			29	X-メン (2000)		○		55	ルパン三世 お宝返却大作戦II (2003)		○	
4	旅情 (1955)	◎			30	グラティーター (2000) ■□		○		56	ロイヤル・セブンティーン (2003)		○	
5	ベン・ハー (1959)		○		31	グリーン・デスティニー (2000)		○		57	80デイズ (2004)			●
6	サウンド・オブ・ミュージック (1964)	◎			32	花嫁年華(かようねんか) (2000)		○		58	TAXI NY (2004) ■	◎		
7	ロミオとジュリエット (1968)	◎			33	トゥームレイダー (2001)		○		59	アレキサンダー (2004)		○	
8	狼の惑星 (1968)			●	34	ハムナプトラ2/黄金のピラミッド (2001) ■□		○		60	ヴェニス商人 (2004)	◎		
9	スター・ウォーズ (1977)		○		35	ハリ・ポッターと賢者の石 (2001) ■	◎			61	ディ・アフター・トゥモロー (2004)			●
10	復活の日 (1980)			●	36	陰陽師 ～おんみょうじ～ (2001)	◎			62	トゥー・ブラザーズ (2004)		○	
11	スーパーマン II/目録 (1981)		○		37	冷静と情熱のあいだ (2001) ■□		○		63	トロイ (2004)		○	
12	レイダース/失われたアーク《聖櫃》 (1981)		○		38	HERO (2002)			●	64	ナショナル・トレジャー (2004)		○	
13	アマデウス (1984)	◎			39	Returner リターナー (2002)		○		65	パッション (2004)		○	
14	ロッキー4/炎の友情 (1985)		○		40	スコビーオン・キング (2002)		○		66	ビフォア・サンセット (2004)	◎		
15	ラストエンペラー (1987) ■	◎			41	スパニッシュ・アパートメント (2002) ■		○		67	悪し刹鬼の爪 (2004)		○	
16	インディ・ジョーンズ/最後の聖戦 (1989)		○		42	トリプルX (2002)		○		68	父と暮せば (2004)	◎		
17	インデペンデンス・デイ (1996)			●	43	ボーン・アイデンティティ (2002)		○		69	アンジェラ (2005)	◎		
18	ノートルダムの鐘 (1996)	◎			44	王様の流方 (2002)		○		70	エンパイア・オブ・ザ・ウルフ (2005)	◎		
19	セブン・イヤーズ・イン・チベット (1997)	◎			45	戦場のピアニスト (2002) ■	◎			71	ナイト・オブ・ザ・スカイ (2005)	◎		
20	モスラ2 海底の大決戦 (1997)	◎			46	名探偵コナン ベイカー街の亡霊 (2002)		○		72	ハリ・ポッターと炎のゴブレット (2005)		○	
21	アルマゲドン (1998)			●	47	ザ・コア (2003)			●	73	ダ・ヴィンチ・コード (2006) ■□		○	
22	オール・アバウト・マイ・マザー (1998)	◎			48	シャンハイ・ナイト (2003)		○		74	ブラダを登る悪魔 (2006) ■		○	
23	ジャンヌ・ダルク (1999)		○		49	ジョニー・イングリッシュ (2003)		○		75	ワールド・トレード・センター (2006)			●
24	ハムナプトラ/失われた砂漠の都 (1999)		○		50	トゥームレイダー2 (2003)		○		76	大受 (2006)	◎		
25	エバ・カ・トリ・エ Episode2:黄金の神殿 (1999)		○		51	ファインディング・ニモ (2003)	◎			77	日本沈没 (2006)			●
26	リブリー (1999)		○		52	ミニミニ大作戦 (2003)		○						

■：表 4 との重複作品 □：表 5 との重複作品

4. 「解説あり回答者」への意識調査

(1) 想起された世界遺産

講義「デザイン工学入門」の中で世界遺産が映画にどのように表現されているかについて解説を行った^{※7)}。解説の後、「世界遺産または世界遺産に匹敵する特徴的な建築・都市を表現した映画を取り上げ、その建築・都市空間の特徴を解説せよ」というレポートを課した。このレポートでは全 113 本の映画が回答に挙げられた。113 本のうち世界遺産が描かれている映画は 77 本^{※8)}であり、「解説なし回答者」が挙げた「特定の都市・街並みが描かれていたと思う映画」の 27 本に比して多くの作品が挙げられた(表 6)。「解説なし回答者」と「解説あり回答者」は、年代はほぼ同じであるが、「解説あり回答者」によって挙げられた映画の方がより幅広い年代に亘っていた。事前に映画に描かれた世界遺産に関する解説が行われることにより、多様な映画が挙げられたといえる。

(2) 映画の空間表現手法と世界遺産

映画は空間構成によって、物語のほとんどが一つの地域内で展開する「単一空間型」(図 1)、複数の建築・都市空間が舞台となる「空間配列型」(図 2)、各地のイメージとしてランドマークが瞬間的に挿入される「空間挿入型」(図 3)の 3 種類に分類出来る^[3]。「解説なし回答者」が想起した 18 作品(表 4 および表 5, 18 作品のうちの 13 作品は「解説あり回答者」が想起した表 6 に含まれる)は、特定の建築・都市空間がまとまったシーンとして描かれる「単一空間型」、「空間配列型」である傾向が強かった。一方、「解説あり回答者」が想起した 77 作品には、「空間挿入型」を含む多様な空間表現が含まれていた。

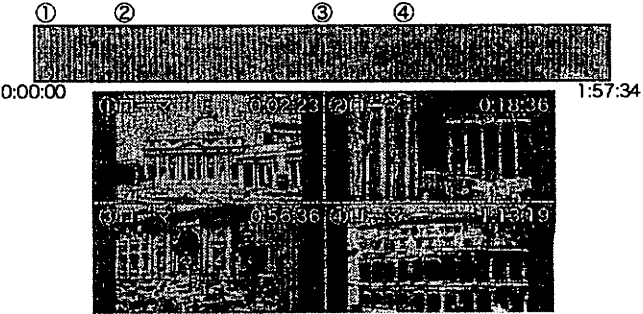


図1 「単一空間型」の例：『ローマの休日』

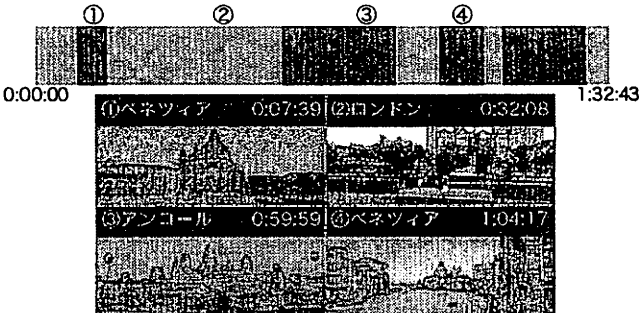


図2 「空間配列型」の例：『トゥームレイダー』

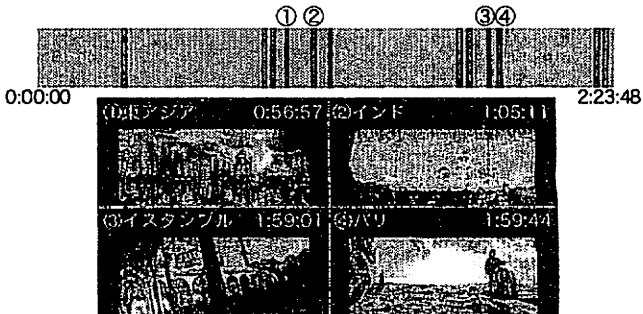


図3 「空間挿入型」の例：『アルマゲドン』

5. まとめ

本研究では、大学生を対象とする世界遺産の意識調査を通して以下のことを検証した。

- (1) 世界遺産は、その基本的概念は概ね理解されているものの、それを知る手段としては、テレビのドキュメンタリー番組や本、雑誌などの情報媒体が多く、映画はその手段とはほとんどなり得ていない。
- (2) 事前に映画に世界遺産が描かれていることを示さない場合でも、代表的な都市・街並みを描いた映画は相当数想起された。それらの映画には世界遺産が描かれているものも多く含まれていた。世界遺産の存在は無意識のうちに鑑賞者に印象付けられていると考えられる。
- (3) 「解説あり回答者」と「解説なし回答者」とで重複して挙げられた世界遺産を認識しやすい映画は、同一の空間がまとまって描かれる映画（「単一空間型」あるいは「空間配列型」）に多かった。
- (4) 世界遺産は映画において多様な空間表現を演出する舞台や背景として描かれており、そのことを事前に示せば、世界遺産が描かれている多様な映画を想起することが可能であると考えられる。

以上、映画の多様な空間構成、空間表現手法を解説することが世界遺産の想起につながる可能性を検証した。映画には、商業的側面を超えた活用方法を見出すことができる。適切なアーカイブシステムの実現、あるいは、適切な解説を加えることにより、世界遺産の価値を伝えるメディアとしての役割を果たし得ると考えられる。

注

注1) 世界遺産は、「人類が歴史に残した偉大な文明の証明ともいえる遺跡や文化的な価値の高い建造物、そしてこの地球から失われてはならない貴重な自然環境を保護・保全管理することにより、人類にとってかけがえのない共通の財産を後世に継承していくことを目的に、1972年のユネスコ総会で採択された『世界遺産条約』に基づく『世界遺産リスト』に登録されている物件^[1]」であり、「記念物や建造物群、遺跡などからなる『文化遺産』、地形や地質、生態系、景観などからなる『自然遺産』、文化遺産と自然遺産両方の定義を満たす『複合遺産』の三つに大別される^[2]」。また、文献[2]によれば、「世界遺産条約」には、2007年10月現在、184カ国が締結しており、「世界遺産リスト」には、2007年10月現在、「文化遺産」660件、「自然遺産」166件、「複合遺産」25件の計851件が登録されている。

注2) 文献[2]によれば、「世界遺産リストに登録されると注目度が高まり」、「さらに観光産業の急激な成長も手伝って、多くの場所に多数の観光客が押し寄せる」ことによる価値発信の利点を認識しつつ、「管理が不適切な場合には脅威ともなり得る」として、「世界遺産の価値を損なうことなく、観光と保護を両立させるため関係者を広く結びつけ」るための「持続可能な観光計画」が重要であるとしている。また、「観光が幅広いサービスの需要をもたらし、それが、地域開発の契機とな」ることで、「遺産の保護活動に対する財政的な援助につながる」とした利点も見出されている。

注3) 例えば、ホームページ「旅に誘う映画ランキング 2006 (ダイヤモンド・ビッグ社、地球の歩き方)」にて、「行ってみたい映画の舞台」「行ってしまった映画の舞台」という視点でアンケート調査が実施され、200名を超えるホームページユーザーの参加があり、延べ652票、250作品が投票されている。

注4) 所属、学年は2007年度現在のものである。

注5) 所属、学年は2007年度現在のものである。なお、対象者の人数は計365人であるが、3人程度のグループでのレポート提出を課している。

注6) 例えば、TBS系列「世界遺産」がある。

注7) 授業では、古代から近世にかけての代表的な世界の建築・都市空間である世界遺産を、主に007シリーズの映画を用いて紹介した。007シリーズは、イギリス秘密情報局の諜報員であるジェームズ・ボンドが世界中を飛び回って活躍する一連の映画である。007シリーズは2008年2月現在までに21作品が製作されており、そのうち18作品に世界遺産が描かれていることを確認している。尚、授業で007シリーズを扱ったため、レポートではこれ以外の作品を対象とするよう指示している。

注8) CGやアニメ等によって世界遺産が写實的に描かれた作品も含む。世界遺産をモデルとした架空の建築・都市空間が描かれた作品は除く。

参考文献

- [1] 古田陽久・古田真美, 世界遺産入門 ―ユネスコから世界を学ぶ―, シンクタンクせとうち総合研究機構, 2007
- [2] 社団法人日本ユネスコ協会連盟, 世界遺産年報 2008, 日経ナショナルジオグラフィック社, 2008
- [3] 安東和祐, 映画にみる都市空間の様相 ―タイムテーブル法を用いた映像空間サーヴェイ―, 法政大学大学院工学研究科紀要 Vol.42, 2001, p641-644